



WAV Manager (V2.1) 取扱説明書 (Windows 専用)



ご使用になる前に必ずお読みください

使用許諾

本ソフトウェアの仕様および本ドキュメントの内容は、将来予告なしに変更する場合があります。本ソフトウェアおよび本ドキュメントの運用で生じる、いかなる「直接的損害」・「間接的損害」についても、フォステクス カンパニーでは保証、サポートなどの一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知置きください。

WAV Manager はフリー・ウェアです。どなたでも無償で自由にご使用いただけますが、著作権はフォステクス カンパニーが保有しています。本ソフトウェアの無断配布や販売およびリース／レンタル、また改変などを加えることは禁止しています。また、本ソフトウェアは商品ではございません。フォステクスのサービスおよびサポートの対象外となります。インストール方法や操作方法などのテクニカル・サポートおよびサービスには、お応えできません。あらかじめご了承くださいの上でのご使用をお願い致します。

概 要

WAV Manager は、フォステクス デジタル・マルチトラックの MR シリーズで作成したソングの各トラック・データを、パソコン内に1つの WAV ファイルとしてインポートするための、ユーティリティ・ソフトです。ステレオ（2トラック）のデータではなく、モノラル 16 トラック分のデータに変換することができます。また、パソコンで作成／編集した WAV ファイルのデータを、MR シリーズのソングにエクスポートしたり、オーディオ CD の作成が可能です。

動作環境

WAV Manager (V2.1) は、Windows XP Home Edition/Professional Edition 上で動作します（*MR-8 でご使用いただくには、MR-8 のバージョンが 1.20 以上であることが必要です）。

起動と終了

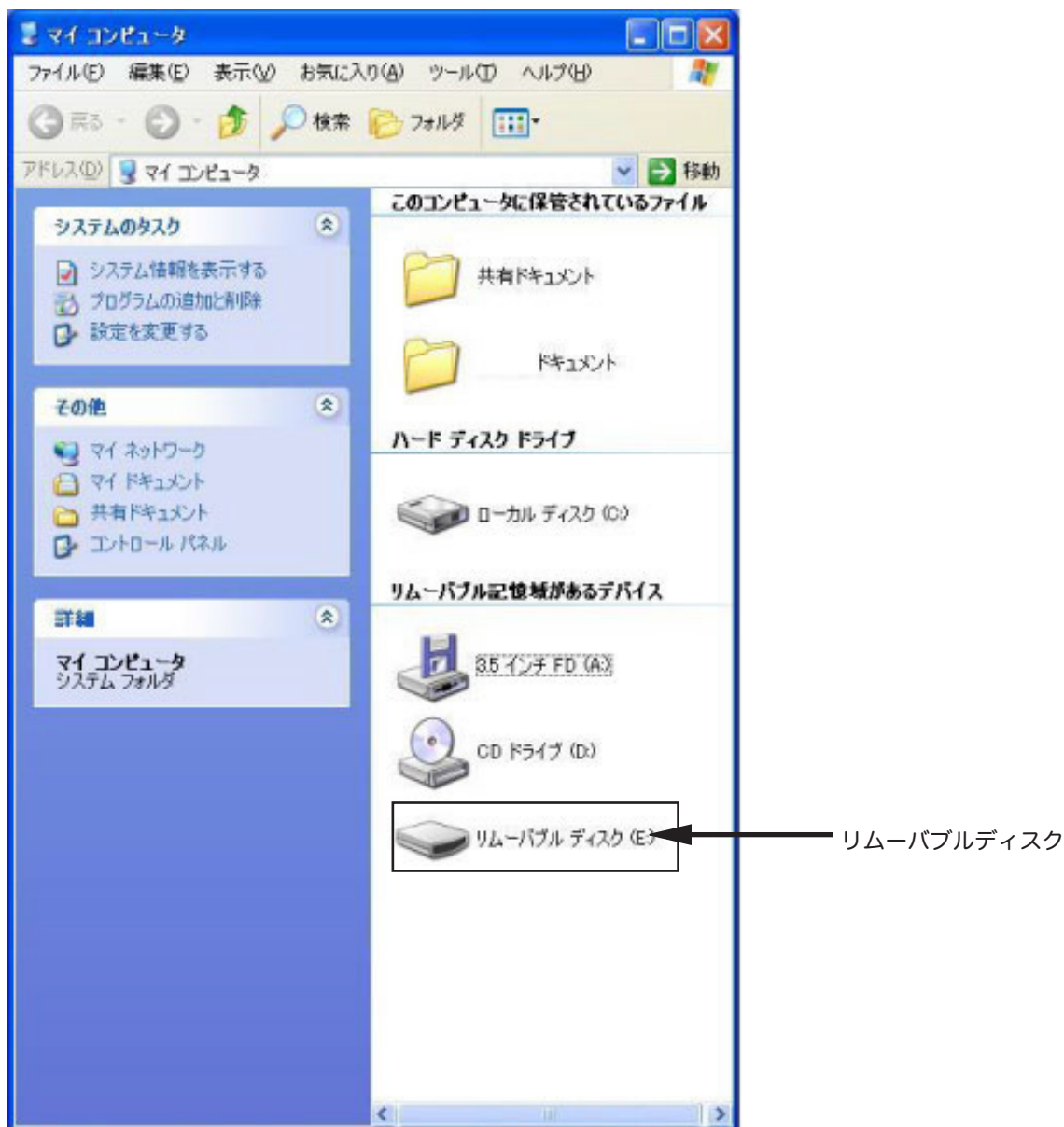
MR シリーズの MENU モードにある“USB Device Mode”を“USB モード”に設定した後、MR シリーズとパソコンを USB ケーブルで接続します（USB モードの設定は、MR シリーズの取扱説明書を参照してください）。その後、WAV Manager を起動します。

<ご注意>

WAV Manager を起動した後に MR シリーズを USB モードに設定した場合は、一旦 WAV Manager を終了し、MR シリーズが USB モードになっていることを確認してから、再度 WAV Manager を起動してください。WAV Manager を終了するときは、ウィンドウ右上の「X 印」をクリックすることで終了します。

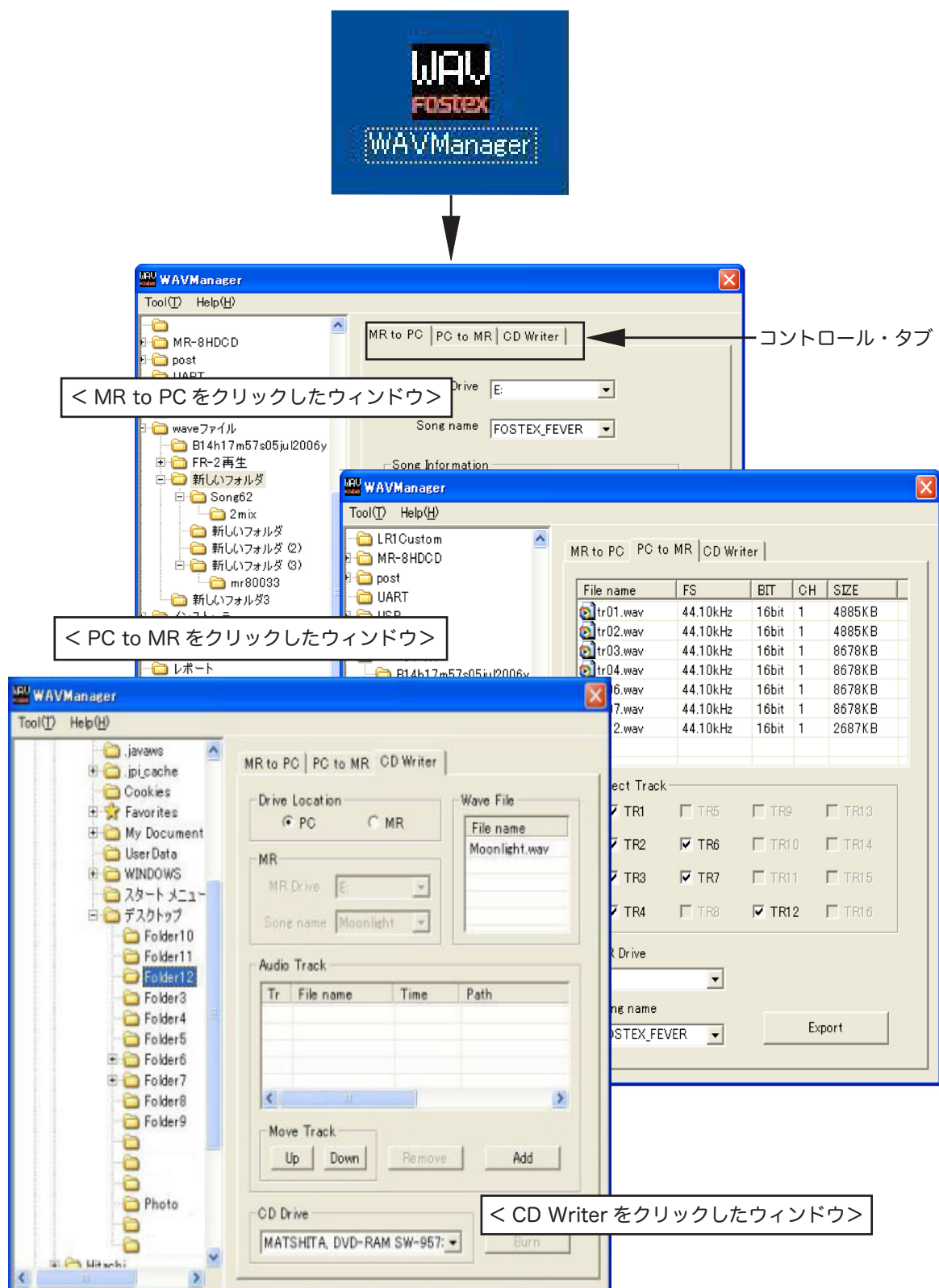
なお、パソコン上にあるステレオ WAV ファイルだけを使用してオーディオ CD を作成する場合は、パソコンに MR シリーズを接続する必要はありません（9 ページ参照）。

MR シリーズが USB モードに設定されているときは、下記図のようにパソコンの「リムーバブル記憶域があるデバイス」に、「リムーバブルディスク」のドライブが表示されます。このドライブが表示されない場合は、USB モードの設定や USB ケーブルの接続を確認し、ドライブが表示してから WAV Manager を操作してください。

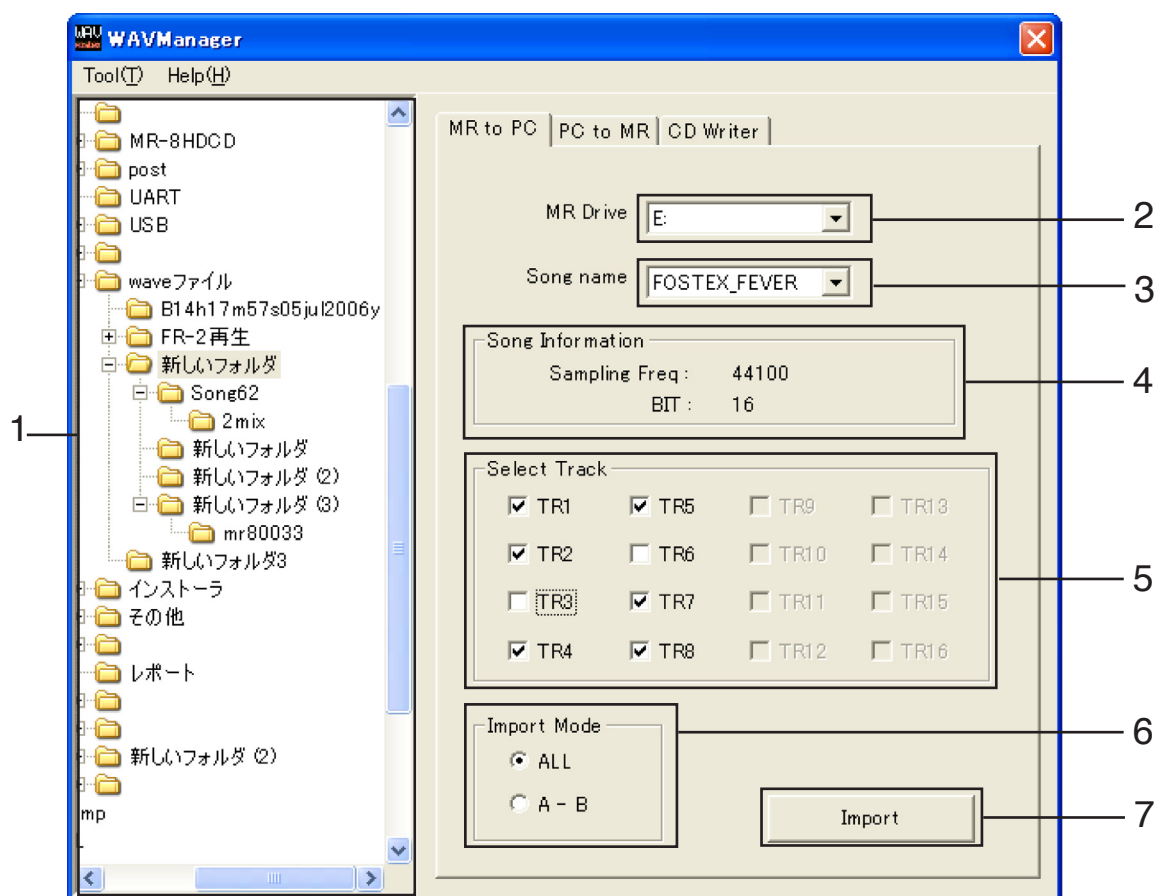


WAV Manager の起動

パソコン上にある“WAV Manager”をダブルクリックすると起動し、下記ウィンドウが表示されます。これは、MRシリーズからPCへソング・データをインポートするためのウィンドウで、「コントロール・タブ（MR to PC、PC to MR、CD Writer）」をクリックしてウィンドウを切り換えます。それぞれのウィンドウ左側には、マイコンピュータをルートとしたディレクトリをツリー構造で表示します。各種ディレクトリの選択操作はここでを行います。それぞれのウィンドウで行う操作手順については、次ページからの説明をお読みください。



MR シリーズから PC へソングをインポート



1. ディレクトリ・ツリー

インポート先のフォルダーを、ディレクトリ・ツリーで選択します。

2. MR Drive

MR Drive のコンボボックスに、現在使用可能な MR シリーズのドライブが列挙され、“Song Name” に現在選択されているドライブ内にある全てのソング・ネームが列挙されます。

複数のドライブが列挙されているときは、▼をクリックして任意のドライブを選択します。

3. Song Name

“MR Drive” で選択したドライブ内の全てのソングが列挙されます。

▼をクリックして希望のソングを選択すると、そのソング・フォルダ内からソング情報が読み込まれ、“Song Information” にその情報が表示されます。また、選択したソング内のトラックに応じて、“Select Track” の対応するトラックのチェック・ボックスが有効になります。

4. Song Information

選択したソングの情報を表示します。

“Sampling Freq” にはサンプリング周波数、“BIT” には量子化ビット数を表示します。上記例では、サンプリング周波数が 44.1kHz、量子化ビット数が 16 ビットであることを表示しています。

5. Select Track

選択したソング内のトラックに応じて、対応するトラックのチェック・ボックスが有効になります。ここでチェックされたトラックのみが、インポートの対象となります。

チェック・マークが表示されているボックスをクリックするとチェックが解除され、再度クリックするとチェックが有効になります。

6. Import Mode

インポートには“ALL”モードと“A-B”モードの2つの方法があります。

“ALL”モードでは、“Select Track”で選択したトラックの ABS 0 から REC END までの全てのデータをインポートし、“A-B”モードではあらかじめ MR シリーズで指定された、ロケート・ポイント A / B 間のみのデータをインポートします。

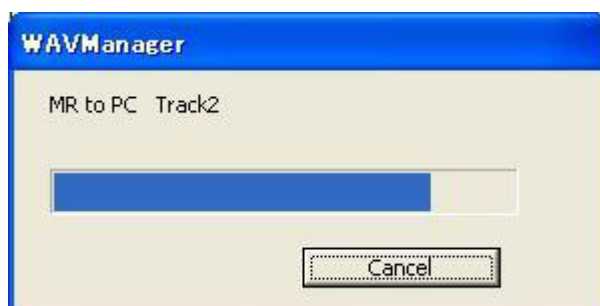
“A-B”モードでインポートするとき、ロケート・ポイント A がロケート・ポイント B 以降に設定されている場合は、エラーが表示されインポートはキャンセルされます。

7. [Import] ボタン

[Import] ボタンをクリックすると、選択したソング／トラック・データのインポートを開始し、各トラック・データは、1 つの WAV ファイルとしてインポートされます。

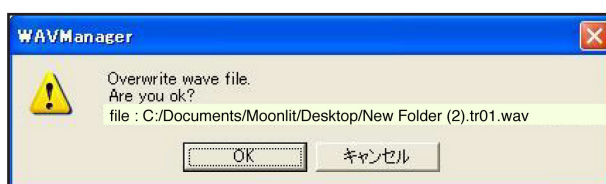
インポート中は下記ダイアログで処理状況が表示され、インポートしたファイルはディレクトリ・ツリーで選択したフォルダー内に格納されます。処理中に [Cancel] をクリックすると、インポートは中断されます。

エラーまたはキャンセルによってインポートが中断された場合、処理中のファイルは削除されます。

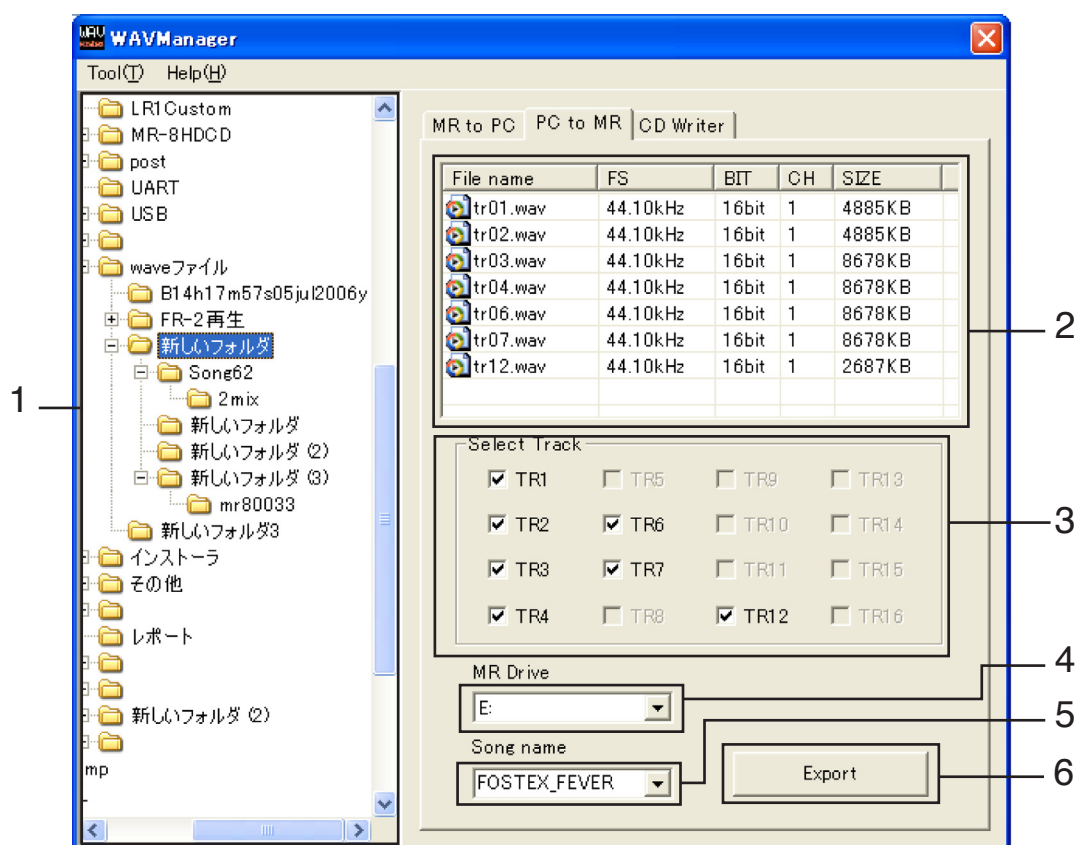


<ご注意>

インポート先のフォルダーに同一のトラック・データが存在する場合、[Import] ボタンをクリックすると右図のような警告を表示します。これは、既存のトラック・データに上書きするかどうかを訊ねています。上書きしても良い場合は [OK] をクリックし、上書きしたくない場合は [キャンセル] をクリックしてください。



PC から MR シリーズヘソングをエクスポート



1. ディレクトリ・ツリー

エクスポートする WAV ファイルが格納されているフォルダーを、ディレクトリ・ツリーで選択します。

2. ソング・リスト

ディレクトリ・ツリーで選択したフォルダー内の、全ての WAV ファイルとその情報が表示されます。

3. Select Track

ディレクトリ・ツリーで選択したフォルダー内の、エクスポート可能なトラックに対応したチェック・ボックスが有効になります。

WAV Manager では、ファイル・ネームが“tr*.wav”（* はトラック・ナンバー）という形式になっているファイルのみをエクスポートの対象ファイルとして扱い、ここでチェックされたトラックのみがエクスポートされます。なお、ファイル・ネームの大文字／小文字は区別しません。

チェック・マークが表示されているボックスをクリックするとチェックが解除され、再度クリックするとチェックが有効になります。

4. MR Drive

MR Drive のコンボ・ボックスに現在使用可能な MR シリーズのドライブが列挙されますので、その中から任意のドライブを選択すると“Song name”に現在選択されたドライブ内にある全てのソング・ネームが列挙されます。

複数のドライブが列挙されているときは、▼をクリックして任意のドライブを選択します。

5. Song name

“MR Drive” で選択されているドライブ内の全てのソングが列挙されますので、▼をクリックしてエクスポート先のソングを選択します。列挙されたソングの最下位には“- - - : (New Song)”が表示されます。

既存のソングを選択するとソング・データを上書きしてエクスポートされ、最下位の“- - - : (New Song)”を選択すると、新しいソングを作成してエクスポートできます。そのため、上書きしたくないときは“- - - : (New Song)”を選択してください。

また、“- - - : (New Song)”を選択すると既定の新しいソング・ネームが表示されますが、この時点でネームの変更が可能です。直接任意のソング・ネームを設定してからエクスポートが実行できます。

<ご注意>

既存のソング・ネームを任意に変更してエクスポートした場合、“- - - : (New Song)”を選択したときと同様、ニュー・ソングとしてエクスポートされます。

6. [Export] ボタン

[Export] ボタンをクリックすると、“Song name” で既存ファイルを選択するか、ニュー・ソングを選択するかによって、下記いずれかの表示が現れます。

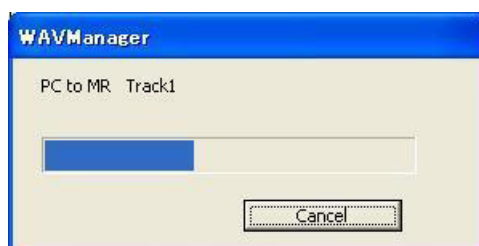


<ニュー・ソングを選択した場合>



<既存のソングを選択した場合>

この後 [OK] をクリックすると、既存のソングを選択したときは上書きしながらエクスポートを開始し、ニューソングを選択したときは [OK] をクリックした時点で新しいソングが作成されてエクスポートを開始します。処理中は下記ダイアログで処理状況が表示されます。

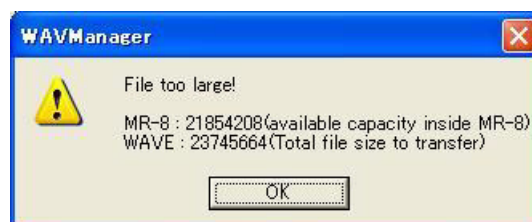


エクスポート先のソングとトラック・ファイル間でフォーマットの整合が取れていない場合は、エラーを表示して処理が中断されます。なお、エラーもしくはキャンセルによってエクスポートが中断した場合は、処理中のファイルは削除されます。

<ご注意>

エクスポート先のドライブに記録領域が不足している場合は、右図のような警告を表示します。[OK] をクリックすると作業は中断され、表示は消えます。

エクスポート先ドライブに、記録可能な領域を確保してからやり直してください。



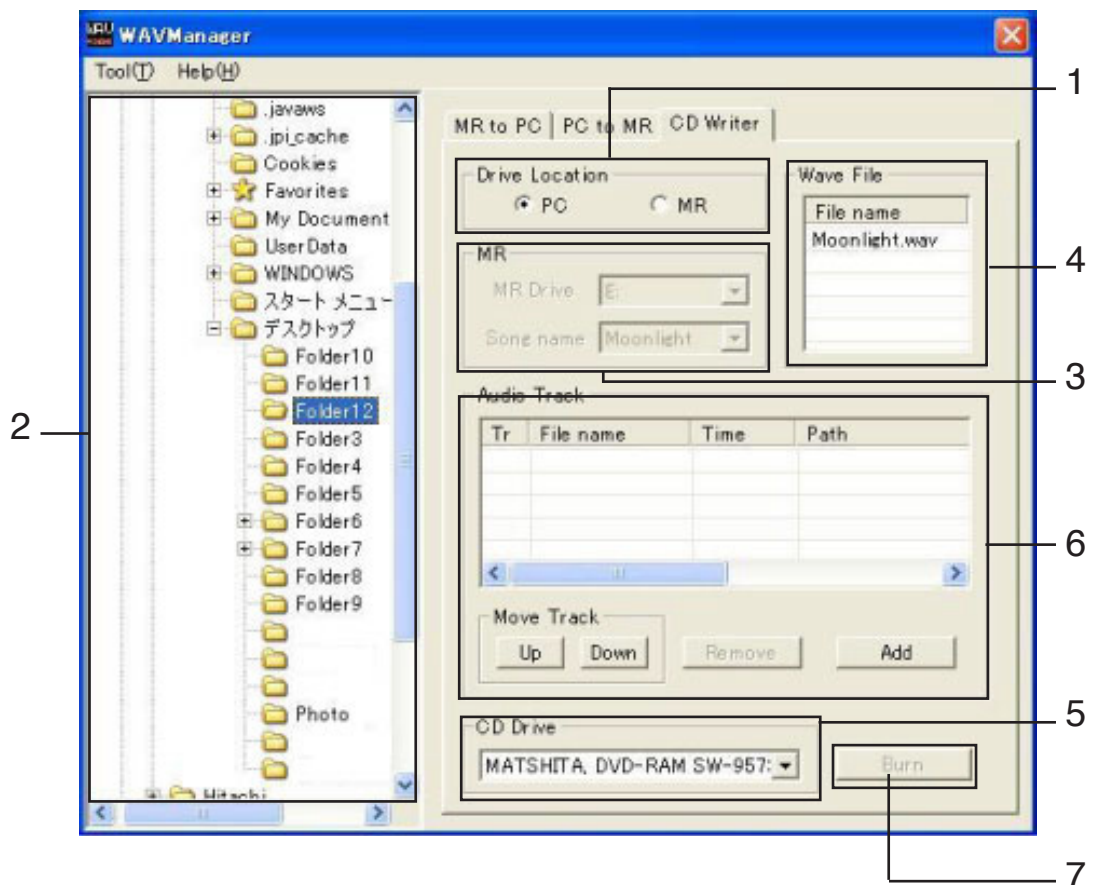
オーディオ CD の作成

パソコンに搭載（または接続）されている CD-R/RW ドライブを使って、オーディオ CD を作成します。オーディオ CD として書き込みできるトラック・データは、MR シリーズのソング・フォルダー内の“2MIX フォルダー”に格納されている“ステレオ WAV ファイル”または PC 上に存在するステレオ WAV ファイルです。なお、パソコン上にあるステレオ WAV ファイルを書き込む場合は、MR シリーズをパソコンに接続する必要はありません。

<ご注意>

WAV Manager では、トラック・アット・ワンスでの書き込みのみが可能です。

また、お使いいただいているパソコンの環境によって、CD 書き込みが正常に動作しない場合があります。



1. Drive Location

WAV ファイルを選択するドライブ（PC または MR）を選択します。

“PC” は、パソコン上にあるステレオ WAV ファイルでオーディオ CD を作成するとき選択します。“PC” を選択すると、ディレクトリ・ツリーでフォルダーの選択が有効になり、WAV ファイルが格納されているフォルダーを任意に選択します。

“MR” は、MR シリーズの“2MIX フォルダー”にあるステレオ WAV ファイルでオーディオ CD を作成するとき選択します。“MR” を選択すると、Drive Location の下にある“MR グループ・ボックス”でのファイル選択が有効になり、ドライブと WAV ファイルが格納されているソングを任意に選択します。

2. ディレクトリ・ツリー

“Drive Location” を“PC” に選択したときのみ、WAV ファイルが格納されているフォルダーをディレクトリ・ツリーから選択します。

フォルダーを選択すると“Wave File” に WAV ファイルが列挙されます。

3. MR グループ・ボックス

“Drive Location” を“MR” に選択したときのみ、グループ・ボックス内の“MR Drive”および“Song name”の選択が有効になります。

3-1. MR Drive

現在使用可能な MR シリーズのドライブが列挙されます（複数の MR シリーズが接続されている場合は、▼をクリックして選択します）。

3-2. Song name

選択したドライブ内のすべてのソング・ネームが列挙されます。▼をクリックして希望のソングを選択します。選択したソングの“2MIX フォルダー”にステレオ WAV ファイルが格納されている場合、“Wave File” にすべての WAV ファイルが列挙されます。

4. Wave File

選択されたフォルダー内の、ライティング可能な WAV ファイルのみが列挙されます。一般的なオーディオ CD で扱われている、44.1kHz/16Bit のステレオ WAV ファイルのみをサポートします。

5. CD Drive

使用可能な CD-R/RW ドライブ名が列挙されます。複数のドライブが存在する場合は、▼をクリックして使用するドライブを選択します。

6. Audio Track

このリストに列挙されたステレオ WAV ファイルが、リストの順番で実際にディスクへ書き込まれます。

6-1. [Add] ボタン

“Wave File” から任意にファイルを選択して [Add] ボタンをクリックすると、選択した WAV ファイルが“Audio Track” リストに追加されます。

<ご注意>

ドライブにディスクがセットされていない状態で [Add] ボタンをクリックすると、右図の警告が表示されます。[OK] をクリックした後、ディスクをドライブにセットしてから再度やり直してください。



6-2. Move Track ([Up] / [Down] ボタン)

“Audio Track” リスト内のトラックを並べ変えることができます。

任意のトラックを選択して [Up] ボタンまたは [Down] ボタンをクリックすると、選択したトラックが上下に入れ替わります。

<ご注意>

最上位のリストを選択して [Up] ボタンをクリックしたり、最下位のリスト選択して [Down] ボタンをクリックすると、右図の警告が表示されます。[OK] をクリックした後、トラックを選択し直してから実行してください。

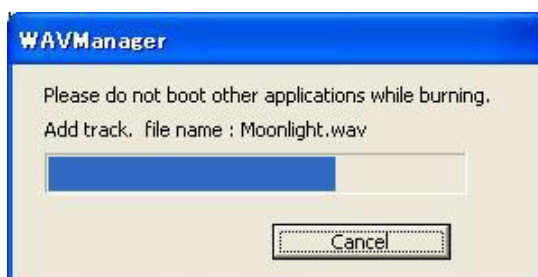


6-3. [Remove] ボタン

“Audio Track”リストから任意のトラックを選択して [Remove] ボタンをクリックすると、選択したトラックが除外されます。

7. [Burn] ボタン

[Burn] ボタンをクリックすると CD の書き込みを実行します。書き込み中はダイアログで処理状況が表示されます。

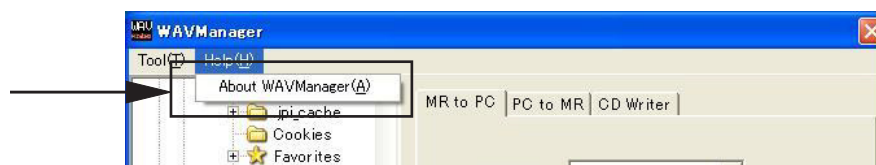
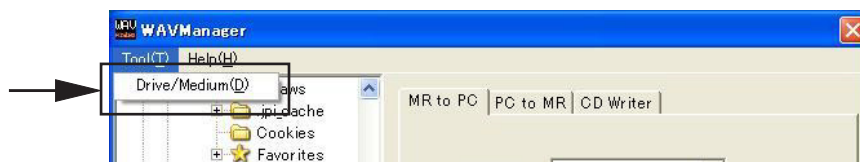


書き込み処理中、オーディオ・ブロック追加時（上記ダイアログに “Add track” が表示されているとき）であれば、[Cancel] ボタンをクリックして処理を中断することが可能です。また、エラーが発生したときは、エラー内容が表示され処理が中断されます。

正常に書き込みが完了すると、自動的にディスクがドライブから排出されます。

メニュー・バーについて

WAV Manager ウィンドウ上部のメニュー・バーには “Tool (T)” と “Help (H)” があり、“Tool (T)” には “Drive / Medium (D)”、“Help (H)” には “About WAVManager (A)” の各メニューが用意されています。



Drive / Medium (D)

“Drive /Medium (D)” をクリックすると下記ダイアログが表示され、ドライブ、メディアの情報が表示される他、オーディオ・データ書き込み済みの CD-RW ディスクのイレースなどが行なえます。



Drive Information

ドライブ情報が表示されます。

“Current Drive” には、現在有効となっているドライブ名が表示され、“Drive Type” にはドライブのタイプが表示されます。

Medium Information

ディスクの情報が表示されます。

“Medium Type” にはメディアのタイプが表示され、“Medium State” にはメディアの状態が表示されます。

[Refresh] ボタン

[Refresh] ボタンをクリックすると、表示情報が更新されます。イレースやディスクを入れ替えたりした場合には、リフレッシュを行わないと、新しい情報が取得できません。

[Eject] ボタン

[Eject] ボタンをクリックすると、ドライブのトレイが開きます。

[Erase] ボタン

オーディオ・データ書き込み済みの CD-RW ディスクをドライブに挿入した場合、[Erase] ボタンをクリックすることでデータが消去できます。なお、イレースは途中でキャンセルできませんのでご注意ください、

About WAVManager (A)

“About WAVManager (A)” をクリックすると下記ダイアログが表示され、WAV Manager のバージョン情報などが表示されます。



補足事項！ ドライブへのアクセス

CD Writer、Drive / Medium ダイアログでは、ドライブにアクセスすることで各種処理を実行するため、他のアプリケーションや OS とアクセスが交錯すると、正常に動作しないことがあります。このようなことが原因でエラーが発生した場合は、暫く時間を空けてから再度処理を行うことで、解決できることがあります。また、サード・パーティ製の CD ライティング・ソフトウェアや、ドライブ・ユーティリティなどがインストールされている環境では、正常に動作できない場合があります。

